

寒さの中にも徐々に暖かい日が増えてきましたね。さて、今回の「図書館でめぐる郷土～八尾市史編～」のテーマは「八尾市の災害（水害）」です。現在の八尾市では大きな水害はありませんが、昔は低湿地として幾度も大規模な水害に見舞われました。昔の人々が懸命に治水に努め、水害を克服してきた歴史と治水事業について見てみましょう。

シリーズ
図書館でめぐる郷土
～八尾市史編～

第五十一回

「八尾市の災害（水害）」

中・北河内地域は淀川と旧大和川に挟まれた低湿地のため、昔から水害に悩まされていました。4世紀頃、日本の最初の堤防として茨田堤(寝屋川市)が淀川に築かれたことが『日本書紀』に記されており、『続日本紀』には旧大和川について宝亀元(770)年に洪水で決壊した渋川堤、志紀堤、茨田堤などをたびたび修復したことが記されています。近年の発掘調査では堤防建設に伴い、物資を運ぶ運河の役割も果たした巨大な人口河川も発見されており、古代から水害を防ぐため、大規模な治水工事が行われていたことがわかります。

17世紀初頭、河内地方では大坂の陣に伴う森林伐採や山地開発による土砂流出が深刻化していた中で、慶長13(1608)年に狭山池の大改修が実施され、堤防の整備とともに池の水を調節する3つの樋が新たに設置されました。しかし、元和6(1620)年5月21日の大雨の際、その東樋が故障して機能しなかったため、狭山池から流れ出す西除川の中流にあたる丹南郡今井村(堺市美原区)で川沿いに建っていた長安寺という寺院が押し流され、さらに下流の丹北郡浄蓮寺村(松原市)でも大洪水となりました。

こうして雨のたびに流出した土砂が下流の旧大和川の川底に堆積して川底が押し上げられ、周囲の田畑より川底が高い天井川を形成したことで洪水被害が頻発しました。これを見かねた中甚兵衛らによる長年にわたる大和川の付け替えの嘆願ののち宝永元(1704)年に大和川の付け替えが完了するも、淀川の決壊によって2つの大規模な洪水が起こります。

享和2(1802)年6月には江戸時代最大規模の洪水が発生し、淀川の北岸から大坂・河内・若江まで9郡237ヶ村が浸水しました。八尾市では服部川村や千塚村で水田が浸水し、被害に遭わなかった村々からの寄付をもとに慈願寺、東本願寺といった寺院が門徒へ見舞金を送るなどの救済活動が行われました。

そして明治18(1885)年6月、長く降り続いた雨で淀川と大和川が氾濫。濁流を川に戻すため堤防を人工的に切断する「わざと切れ」を行ったことで一旦は水が引きますが、再び暴雨に襲われて水位の上がった淀川が逆流し、北・中河内、上野台地を除く大阪市全域の337町村・14,925戸と田畑が浸水しました。被災人口は約27万人に上り、大阪の橋は30ヶ所以上が流される未曾有の災害となりました。この大水害をきっかけに淀川の改良工事を望む声が高まり、明治43(1910)年に現在の淀川が完成してからは洪水が起こりにくくなり、現代の八尾市では平成7(1997)年の大雨の浸水以降、大きな水害はありません。これは昔の人々が懸命に治水を重ね、今も大切に守ってきた結果なのです。



【写真】上層東樋の全体
提供：大阪府立狭山池博物館

参考資料

- 『河内の災害史』2003年2月 八尾市歴史民俗資料館/編
- 『物語 八尾の歴史』2015年3月 八尾市教育委員会生涯学習部文化財課市史編纂室/編
- 『ぶらり八尾考古歴史散歩』2019年3月 公益財団法人八尾市文化財調査研究会/編
- 『新版八尾市史 通史編2』2024年2月 市史編纂委員会/編
- 『わたしたちの八尾市 3・4年生』2025年4月 「わたしたちの八尾市」編集委員会/編

3月のTopics & Information



-Topics

蔵書点検



八尾市の図書館は2月から3月にかけて各図書館が順番に蔵書点検を行っています。蔵書点検とは、簡単に言うと「棚卸し」です。行方不明の資料はないか、データ通りの場所に並んでいるかなど、専用の機械を使って年に一度点検しています。また蔵書点検は「曝書」とも言われます。曝書とは本の虫干しのことで、図書館でも古くは虫干しをすることで本のメンテナンスを行っていました。その名残で現在も「曝書」という言葉が残っています。

数日間、図書館を閉館にするためご不便をおかけしますが、快適に資料を利用させていただくためにも大切な作業です。ご理解とご協力をお願いいたします。

【龍華図書館 蔵書点検のスケジュール】

2026年3月4日(水)～6日(金)

※上記期間中は返却ポストをご利用ください。

-Information イベントのご案内

八尾電子図書館体験会

龍華コミセンまつりで体験ブースを出展します。
八尾電子図書館のログイン・貸出・返却・予約などが
体験できます。お気軽にご参加ください！



●日時…2026年3月8日(日)

9:30～12:00

●場所…龍華コミセン1階エントランス

●対象…八尾市在住・在勤・在学の方

申込は不要です。上記時間帯にお越しください。



今月の一冊はコレ!



「あの鐘を鳴らしたのはわたし」

(資料コード: 711206011)

著者: 秋山 気清 / 出版者: 音楽之友社



日曜のお昼に放送される、のど自慢に欠かせないのが「あの鐘」。番組オープニングや歌の出来栄えを知らせるときの高らかな音をすぐ思い出せる人も多いのではないのでしょうか。番組で21年間鐘を鳴らし続け、2023年3月に引退した筆者による自伝エッセイです。一体どんな人が「あの鐘」を鳴らしていたのでしょうか。気になる方は是非読んでみてください。【表紙画像】出版書誌データベースより

編集・発行

八尾市立龍華図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター

〒581-0056 大阪府八尾市南太子堂 2-1-45
TEL 072-922-8007 FAX 072-922-7057
ホームページ <https://yao-ryugelib.jp/>

Facebook

情報発信をしていますので、
いいね!してください。

